



トルコの伝統や文化など

トルコの伝統文化

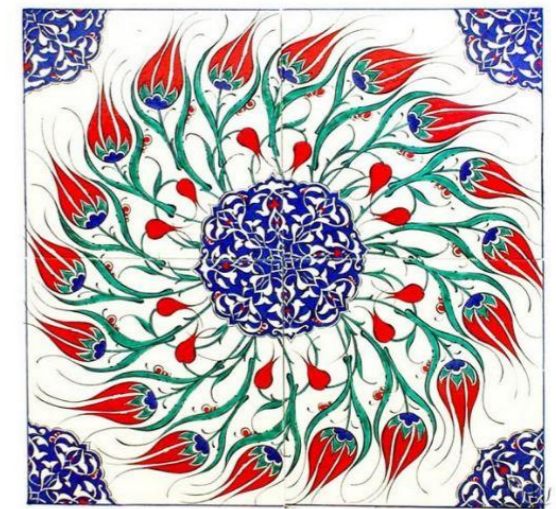
邪眼のお守り「ナザール・ボンジュウ」

「ナザール・ボンジュウ」は、4つの同心円から成る目の形をした古代トルコのお守りです。「ナザール・ボンジュウ」は、他人の嫉妬と羨望のまなざしを象徴しています。「ナザール・ボンジュウ」は、邪悪な思考によって生じる悪いエネルギーを吸収することで持ち主を守り、不幸を遠ざけると信じられています。



タイルと陶器「イズニクタイル」

イズニクのタイルと陶器は、オスマン帝国の最初の首都ブルサ市内にあるイズニクで生まれた、15世紀の最後の四半期から17世紀の終わりまで製造されました。美しく装飾されたデザインは、オスマン帝国の伝統的なパターンと青、ターコイズ、赤、緑の中国の要素を組み合わせたものです。イズニクタイルは、16世紀半ばから17世紀半ばにかけて、イスタンブールの宮殿やモスクなどの帝国の建物を飾るために使用されました。イズニクタイルで装飾された最も有名な建物は、建築家ミマール・シナンによって設計され、1616年に完成した、ブルーモスクとしても知られる「スルタンアフメット・モスク」です。



トルコの伝統文化

トルコ絨毯と絨毯織り

トルコには絨毯織りの文化遺産があります。**キリム(Kilim)**はトルコの平織り絨毯です。キリムの最古の記録はアナトリアのチャタルホユク新石器時代遺跡から出土しており、約 9000 年前のものと推定されています。豊かな絨毯織りの伝統は、アナトリアのセルジューク朝とオスマン帝国によって引き継がれました。トルコの絨毯は通常ウールまたは綿で作られていますが、場合によってはシルクが加えられることもあります。トルコ絨毯のデザインは、「水差し」「腰に手を当てる女性」「星」「水の流れ」「羊の角」「目」など、大胆な幾何学模様が特徴です。トルコ絨毯には手織りのものと平織りのものがあります。

「ヘレケ」カーペットは、二重結び目技術を使用してシルクを手織りした最もよく知られたタイプのトルコ絨毯です。コジャエリ市の海岸沿いの町ヘレケで生産されたこれらの絨毯は、オスマン帝国の宮殿の装飾として使用されていました。



伝統手芸「オヤ」

オヤ(Oya)は、縁飾りを意味する言葉とされています。オヤにはいくつかの技法があり、図面が無く、縫い針やヘアピンなどを使って編んでいきます。模様のモチーフにも意味があり、ヒヤシンスは紫が恋愛中、ピンクは婚約中、白は忠誠心。唐辛子には「結婚生活に不満有」という意味だそうです。



トルコの音楽・楽器

ケメンチェ

ケメンチェ (Kemenche)は西洋音楽を代表するバイオリンとチェロのルーツのひとつとされています。ケメンチェをはじめとする弦楽器は、バイオリンがイタリアで発明される100年以上も前から東欧の様々な国で使われており、地域や文化によって呼び名も異なります。

ケメンチェは、黒海に隣接するアナトリア北部地域に起源を持つトルコの民族楽器です。ケメンチェにはネック、ステム、ボディの3つの部分があり、すべて1枚の木から削り出されます。

本体の丸みを帯びたエッジの外側には「D」字型の穴が2つあります。弦が3本あり、弓で演奏します。立っている場合、奏者は左手で楽器を空中に持ちます。座っている場合は、膝の間に置きます。



大太鼓の原型「ダヴル」

現在の「大太鼓」の原型になったとされる**ダヴル(davul)**は、円筒形の大型の太鼓を体から吊り下げて、ばちで叩いて演奏します。オスマン帝国時代の14世紀に設立された世界最古の軍楽隊のひとつとして知られるイエニチェリ軍楽隊「メフテルハーネ」に欠かせなかったのがダヴルです。

ダヴルは、軍楽だけでなくお祭りや結婚式などのお祝い事にも登場する楽器です。



トルコの民族衣装

トルコでは、地域によって独特の民族衣装があります。また、オスマン帝国時代に階級に応じた服装にするよう法律で規制した結果、衣装はヒエラルキーを象徴するものとなりました。

最も代表的な民族衣装に、長袖で長い前開きのガウンのような形状の**カフタン(kaftan)**がありますが、女性用は美しい手を人に見せないために袖口がとても広がっているのが特徴で、男性用は袖口が細くなっています。

どの民族衣装も伝統的な刺繍で飾られているという特徴もあり、刺繍の様子は主に自然をモチーフにしたものが多いです。

